

巻頭言 「ジャコメッティの目」

宇野 元

アルベルト・ジャコメッティという彫刻家がおります。さきの世紀にパリで仕事をしたスイスの芸術家でした。一度、その特色ある作品を見たら、忘れることはないでしょう。細長い人物たち。上体を前に屈めて歩く人。雨のなかを急ぎ足で。明るい朝に広場を横切って。

画家のミロが、面白い逸話を語っています。ジャコメッティはどのようにして世に出たのか。その顔による。カフェでたまたま隣に座った詩人コクトーが彼の顔に強い印象を受け、話しかけると、自分は彫刻家だと言った。コクトーは知り合いの美術商に連絡し、どんなものを創っているかまったくわからないが、芸術家であることを裏切る顔ではない、と言った。

ジャコメッティは、絵も素晴らしい人です。また、多くの素描は彼の彫刻作品と印象が重なるでしょう。対象と作者との間にある空間が感じられます。たいへん個性的な作風の彼は、自分の作品は観念的なものではなく、ひたすら現実を表現しようとするものである、見えるものを見えるとおりに表そうと試みていると、くりかえし語っています。自分にとって創作は、よりよく見るための方法であるとも。みずからの信条をまとめたような文章「私の現実」に、次のように記されています。作品を創るのは「現実を捉えるため」「一層よく見んがため、周囲のものを一層よく理解せんがため」「新しい世界を発見するため」である。

ジャコメッティの目が新鮮な作品をうみだしたように、聖書は新しいものの見方を示してくれます。聖書によって私たちは、私たち自身の現実をより深く見つめるようみちびかれるからです。抛り所のない私たち人間。元気な人も。知恵ある人も。社会的な地位をもつ人も、そうでない人も。善人も、悪人も。寄る辺のない存在。過ぎ去った時と、まだ来ない時のはざまにある、あやうい存在。

しかし、イエス・キリストと共にある存在。イエスは二人の犯罪者と、苦しい時を共にされました。イエスの十字架は、苦しむ私たちと神が共にいてくださることの永遠の証しです。将来への希望を失うことなく今を生きられるように、私たちに贈られた抛り所です。常に、そして困難な時、見つめるべきものが示されています。イエス・キリストにある神の愛。